

バレーボール選手  
サントリーサンバーズ所属

## 柳田将洋 君

【やなぎだ まさひろ】

1992年東京生まれ。2015年環境情報学部卒業。小学生の頃、地域のクラブチームでバレーボールを始め、全日本小学生大会で優勝、東洋高等学校を第41回全国高等学校選抜優勝大会（春の高校バレー）優勝に導く。義塾では、体育会バレーボール部で活躍し、2012年全日本インカレ準優勝。在学中にバレーボール全日本男子チーム（龍神NIPPON）に選抜される。2015年4月、サントリーホールディングス入社。ウイングスパイカーとして活躍中。

## バレーボールV・プレミアリーグで活躍中。 全日本チームにも選抜され、目前に迫った オリンピック最終予選の勝利を目指す

スポーツ+学問の志を持って義塾へ

——バレーボールV・プレミアリーグサントリーサンバーズの選手として、また全日本男子チーム「NEXT4」の一人としても注目されている柳田将洋さん。昨年義塾を卒業したばかりですが、在学中は体育会バレーボール部の主将も務め、大いに活躍しました。柳田さんは、高校時代から注目される逸材でした。多くの誘いがあったと思いますが、義塾に進学した理由を聞かせてください。

柳田 バレーボール中心の生活をしてきた自分にとって、義塾は受験レベルの高い大学でした。しかし、難関ゆえに合格を目指して挑戦したいと思ったのです。また、大学ではバレーボールの他に、学問にもしっかりと取り組んでみたいという志も持っていました。そんななか、バレーボール部の方から声をかけてもらい、練習を見学させていただく機会がありました。そして、学生が主体になって、自分たちで考え、意見を交わしながら練習しているところに魅力を感じました。

——環境情報学部の受験はAO入試でしたが、どのような準備をしましたか？

柳田 プレゼンテーションでは、高校時

代の部活でのチャレンジや、ユース大会で世界のさまざまな国で試合をした経験など、これまでのバレーボールへの取り組みとともに、これから大学で学びたいこと、挑戦したいことをきちんと伝えられるように、準備をして臨みました。バレーボールへの理解を深めていただくために、紙芝居のようなものも作りましただも本番の日は、けっこう緊張していたのでしようね。受験票を忘れて、自宅に取りに戻ったりもしました。

——入学後、SFCで学んだことは？

**柳田** SFCの授業は多彩。どんなことを学べるのかを知りたくて、バレーボール部の先輩から情報を仕入れては、いろいろな授業をのぞいてみました。子どもの頃から建築に興味がありましたから、その関係の授業も取ってみました。想像以上に難しい分野で、残念ですが3、4回ぐらい出席したところで断念。でも、環境情報学部にはスポーツ工学など、スポーツに関連している授業もあり、さまざまな角度でスポーツにアプローチできます。

研究会は加藤貴昭研究室に所属して、スポーツ力学の研究をしました。研究テーマは、バレーボールのアタックフォームの力の伝わり方をいろいろな角度から



2015年3月卒業式にて

解析することです。背骨の動きや肩の回し方、アタックに跳ぶまでの準備動作の角度など、多彩なデータを取って、重ね合わせて比較検討し、ベストのアタックフォームを追求しました。最後は卒業論文にまとめたのですが、バレーボールの練習で体が覚え込んでいることを、数値で検証したことで再確認したこともあり、また新しい発見もありました。研究会で取り組んだことは、これからの自分のバレーボールにも、必ず役に立つと思います。

### 思い出は早慶戦の勝利

——柳田さんは、アタックのフォームが美しいことで定評がありますね。ところで、体育会バレーボール部では、2年生

の時に全日本インカレの準優勝に貢献されました。義塾でのバレーボールライフについて話してください。

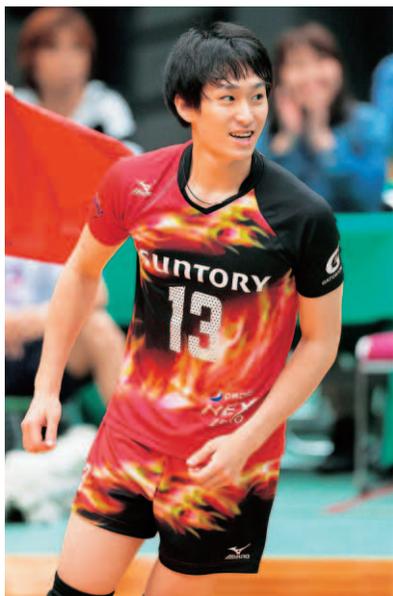
**柳田** 入学前に感じた通りにバレーボール部は学生が主体の、風通しの良い部でした。4年間の部活動は充実していて、ここで学んだこと、得たものは本当によくさんあります。特に、2学年上のある先輩に出会えたことで大きな影響を受けました。バレーボールはチームプレーですが、高校まではどうしても自分中心の考えになりがちでした。しかしその先輩は、自分がよければいいのではなく、周囲の人をどう生かして戦うかを、常に考



体育会バレーボール部主将として活躍した柳田君

えていました。たとえ自分の負担が大きくなったり、きつくなったりするとしても、周りの選手たちが十分に力を発揮するにはどうすればいいのかを模索し続けている、その考え方も実際の行動も尊敬できるものでした。チームプレーについて、この先輩からは実に多くのことを学ばせてもらいました。

このような人との出会いや主将の経験を通じて、人と向き合うことができるようになったと思います。他の人が何を考え、どう感じているのかを知るために、積極的に自分から話をするようになりました。他の人の意見を尊重するとともに自分も主張し、チーム全体で目標に向かっていくことこそ、バレーボールに限らずチームスポーツのいちばん大切なことです。義塾には半学半教という言葉があつて、



サントリーサンパズ Web サイトより

研究会などでは、知識のある人が誰にでも気軽に、必要なことを教えるという雰囲気があります。運動部でも、学年や立場を超えて教え合うことが重要で、主将だった時に1年生の意見に「そうか、なるほど」と気づかされたこともあります。このような自由な雰囲気、義塾のいいところですね。

——大学時代に、特に印象に残っている試合はありますか？

**柳田** 2年の時の筑波大学との全日本インカレ決勝戦です。12月のインカレは一年の締めくくり。インカレ優勝を目指して戦ってきて、決勝まで積み上げてきたのに、最後の最後に力を出し切れずに負けてしまい、「なぜだ？」と考えずにはいられません。そして、インカレ優勝が目標では何かが足りなかった、もっと先を見て目標設定をしないと、目の前の目標は達成できないのではないかと感じました。その翌年は、強かった前年のチームを目指してチーム作りをしました。結果が出なかった。前年より弱くなってしまったのです。これも同じで、去年と同じようにという目標



では、何かが足りなかったのだと思います。インカレ決勝は、負けてしまった試合ですが、いちばん印象に残っています。——勝つてうれしかった試合は？

**柳田** 2014年6月、主将の時の早慶戦での勝利です。日吉記念館に大勢の人が集まって応援してくれて、リーグ戦とはまた別の特別な雰囲気です。やはり早慶戦の思い出は特別ですね。

### オリンピック最終予選へ向けて

——バレーボール以外で楽しかった思い出は何ですか？

**柳田** 授業で面白かったのは環境情報学

部必修のプログラミング。最初は苦勞しましたが、だんだんわかってくると楽しくなり、いろいろやってみたくります。最後には、柳田オリジナルのゲームプログラムを完成させました。

バレーボール部員は寮生活ではありません。自宅通学の人もいるし、アパートを借りている人もいます。練習場所は日吉記念館なので、自宅でない人の多くは、日吉に部屋を借りていて、私も日吉からSFCの授業に通っていました。先輩、同期、後輩の誰かの部屋に集まって食事をしたり、しゃべったり、一緒に遊んだり、学生らしい伸び伸びした生活でした。またバレーボール部の仲間だけでなく、他の運動部の人との交流もありました。特にバスケットボール部は同じ日吉記念館で練習をし、私自身バスケットの試合を見るのも好きなので、仲良くなってお互いの試合や練習のことなど、いろいろ話をしました。競技は違っても、どうすれば強くなれるか、効果的な練習ができるかなど、熱中して話し合ったのも楽しい思い出です。

——在学中に全日本チームに招集されていますね。

柳田 はい。部活動とはまた違う、貴重な経験でした。ワールドカップは日本開

催なので、その準備として、できるだけ外国チームとの対戦経験を積むために、チェコ、ブラジル、韓国、イタリア、イラン、ポーランドなど、海外遠征にもたくさん参加しました。私の身長は186cmですが、海外チームと戦うには小柄なほうです。大男が多い海外チーム相手にむやみにアタックを打ってもブロックされてしまうので、いろいろと戦術を考えて自分を生かす工夫をしました。2015年のワールドカップの結果は6位で、チームとしても、個人としても課題は多々残りましたが、間違いなく貴重な経



サントリーサンバーズ Web サイトより

験になりました。今年ハリオデジャネイロオリンピックがあり、もちろん出たいと思いますが、まずは5月〜6月に開かれるオリンピック最終予選を勝ち抜かなければなりません。毎日の積み重ねを、どれだけ発揮できるかと考えています。

——サントリーサンバーズに入団して、大学時代と変わった点は？

柳田 当然のことですが、学生の頃より結果が厳しく求められます。結果が出ないとスタメンを外されます。ただ経験値の厚さがすごい先輩たちの動きを見て、話を聞いて、どんどん吸収する充実した毎日です。ちなみに義塾のバレーボール部の先輩である星谷健太郎さんもサンバーズにいたので、「今日、勝つたらしいですよ」とか、バレーボール部の動向について話題になることもあります。

——最後に塾生へのメッセージをお願いします。

柳田 卒業してみると、4年間はあっという間でした。その学生生活で何をして、何をつかむか、真剣に考えて取り組むと、卒業の時に「濃い4年だった」といい思い出が残るはず。限りある時間を、勉強にスポーツに、充実させてほしいと思います。

——今後のご活躍を期待しています。ありがとうございました。